

# 自殺の動向について

厚生労働省社会・援護局

ひと、くらし、みらいのために



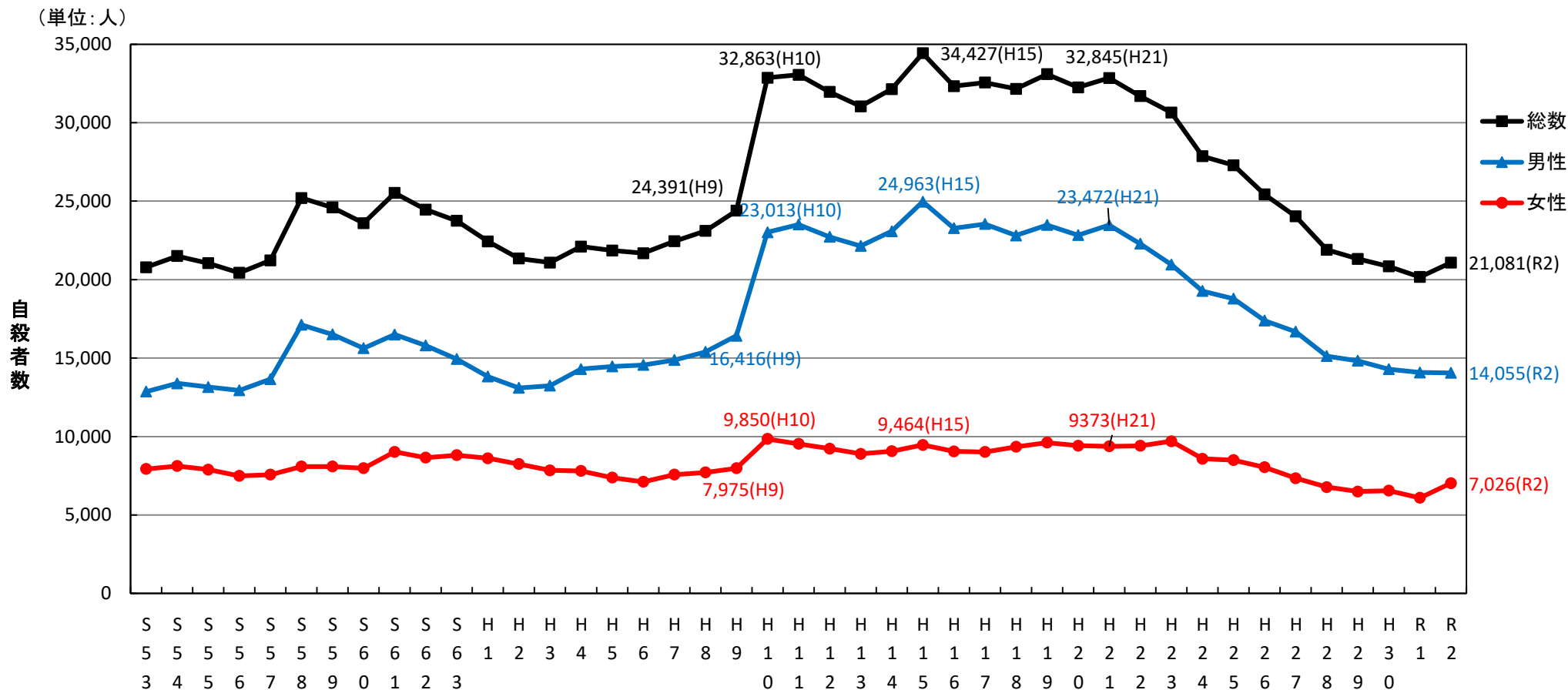
厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare

# 自殺者数の年次推移(昭和53年～令和2年)

○令和2年の自殺者数は21,081人となり、対前年比912人(約4.5%)増。

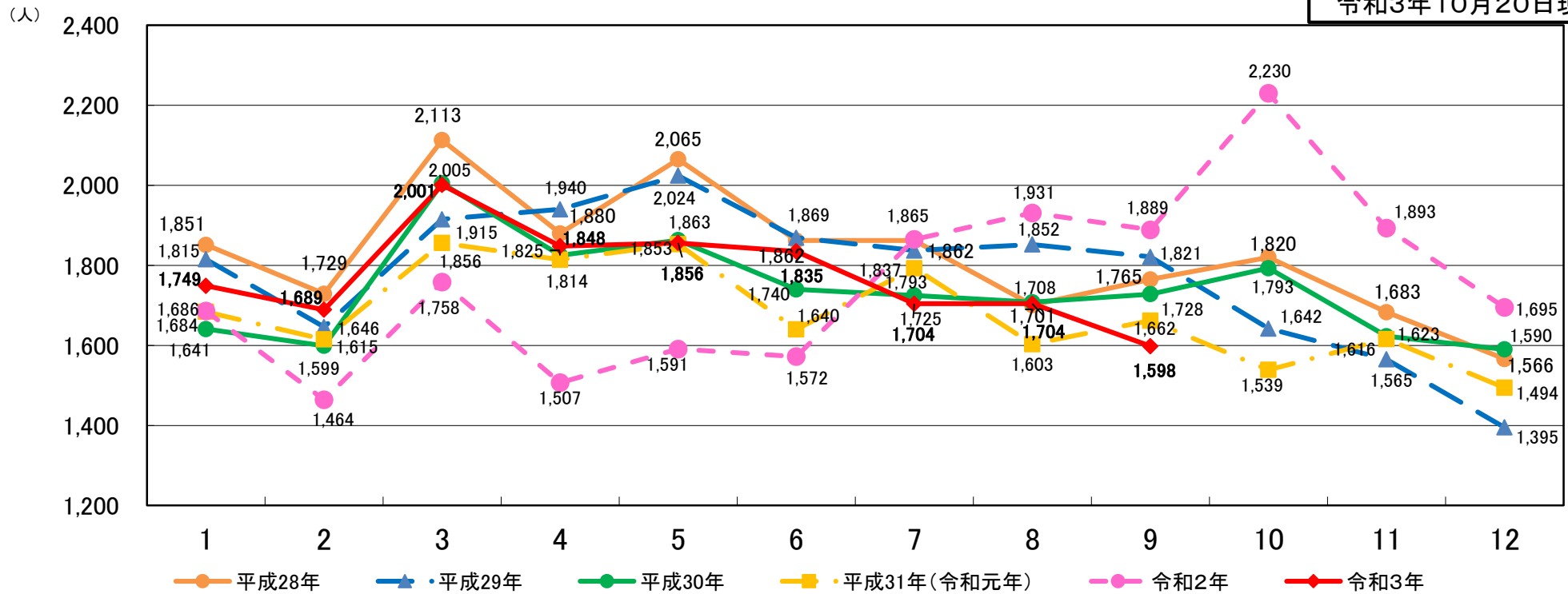
○男女別にみると、男性は11年連続の減少、女性は2年ぶりの増加となっている。

また、男性の自殺者数は、女性の約2.0倍となっている。



# 自殺者数の最近の動向(月別総数)

令和3年10月20日現在



		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和3年	合計	1,749	1,689	2,001	1,848	1,856	1,835	1,704	1,704	1,598				15,984
	男性	1,177	1,136	1,329	1,239	1,219	1,210	1,144	1,096	1,070				10,620
	女性	572	553	672	609	637	625	560	608	528				5,364
令和2年	合計	1,686	1,464	1,758	1,507	1,591	1,572	1,865	1,931	1,889	2,230	1,893	1,695	21,081
	男性	1,189	1,031	1,250	1,063	1,093	1,061	1,199	1,253	1,229	1,341	1,242	1,104	14,055
	女性	497	433	508	444	498	511	666	678	660	889	651	591	7,026
対前年増減数(月別) (3-2)	総数	63	225	243	341	265	263	△ 161	△ 227	△ 291				-
	男性	△ 12	105	79	176	126	149	△ 55	△ 157	△ 159				-
	女性	75	120	164	165	139	114	△ 106	△ 70	△ 132				-

※令和2年は確定値、令和3年は暫定値

# 年齢階級別、職業別、原因・動機別の比較について

## 1. 年齢階級別の比較

		自殺者数	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上	不詳
令和2年 (確定値)	総数	21,081	777	2,521	2,610	3,568	3,425	2,795	3,026	2,305	54
	男	14,055	466	1,684	1,846	2,466	2,371	1,859	1,912	1,405	46
	女	7,026	311	837	764	1,102	1,054	936	1,114	900	8
令和元年 (確定値)	総数	20,169	659	2,117	2,526	3,426	3,435	2,902	2,917	2,134	53
	男	14,078	443	1,483	1,878	2,511	2,497	2,045	1,882	1,294	45
	女	6,091	216	634	648	915	938	857	1,035	840	8
差	総数	912	118	404	84	142	-10	-107	109	171	1
	男	-23	23	201	-32	-45	-126	-186	30	111	1
	女	935	95	203	116	187	116	79	79	60	0

## 2. 職業別の比較

		自営業・家族 従業者	被雇用者・勤 め人	学生・生徒等	無職者	うち主婦	うち失業者	うち年金・雇用保 険等生活者	うちその他の無職 者	不詳
令和2年 (確定値)	総数	1,266	6,742	1,039	11,718	1,168	636	5,101	4,745	316
	男	1,094	5,208	652	6,842	0	542	3,110	3,133	259
	女	172	1,534	387	4,876	1,168	94	1,991	1,612	57
令和元年 (確定値)	総数	1,410	6,202	888	11,345	1,025	684	5,081	4,489	324
	男	1,259	5,057	619	6,874	0	597	3,205	3,023	269
	女	151	1,145	269	4,471	1,025	87	1,876	1,466	55
差	総数	-144	540	151	373	143	-48	20	256	-8
	男	-165	151	33	-32	0	-55	-95	110	-10
	女	21	389	118	405	143	7	115	146	2

※無職者には、上記の他に利子・配当・家賃等生活者等の分類がある。

## 3. 原因・動機別の比較

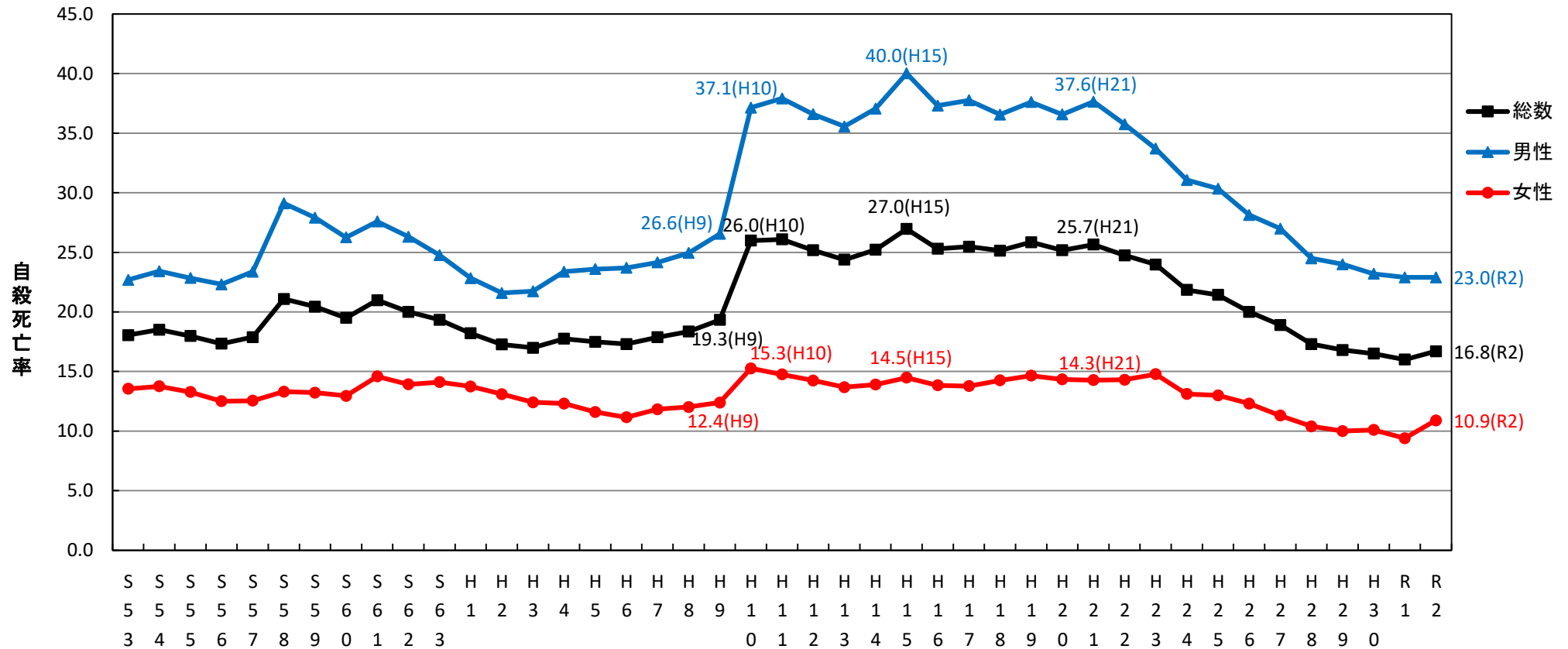
		家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳
令和2年 (確定値)	総数	3,128	10,195	3,216	1,918	799	405	1,221	5,954
	男	1,836	5,676	2,791	1,591	462	253	816	4,299
	女	1,292	4,519	425	327	337	152	405	1,655
令和元年 (確定値)	総数	3,039	9,861	3,395	1,949	726	355	1,056	5,247
	男	1,870	5,853	2,980	1,711	454	269	763	3,925
	女	1,169	4,008	415	238	272	86	293	1,322
差	総数	89	334	-179	-31	73	50	165	707
	男	-34	-177	-189	-120	8	-16	53	374
	女	123	511	10	89	65	66	112	333

注：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）において特別集計したものである。

# 総数及び男女別自殺死亡率の年次推移

○令和2年の自殺死亡率は16.7となっている。

○男女別にみると、女性は10.9で1.5ポイントの上昇となっている。また、男性は、女性の約2.1倍となっている。



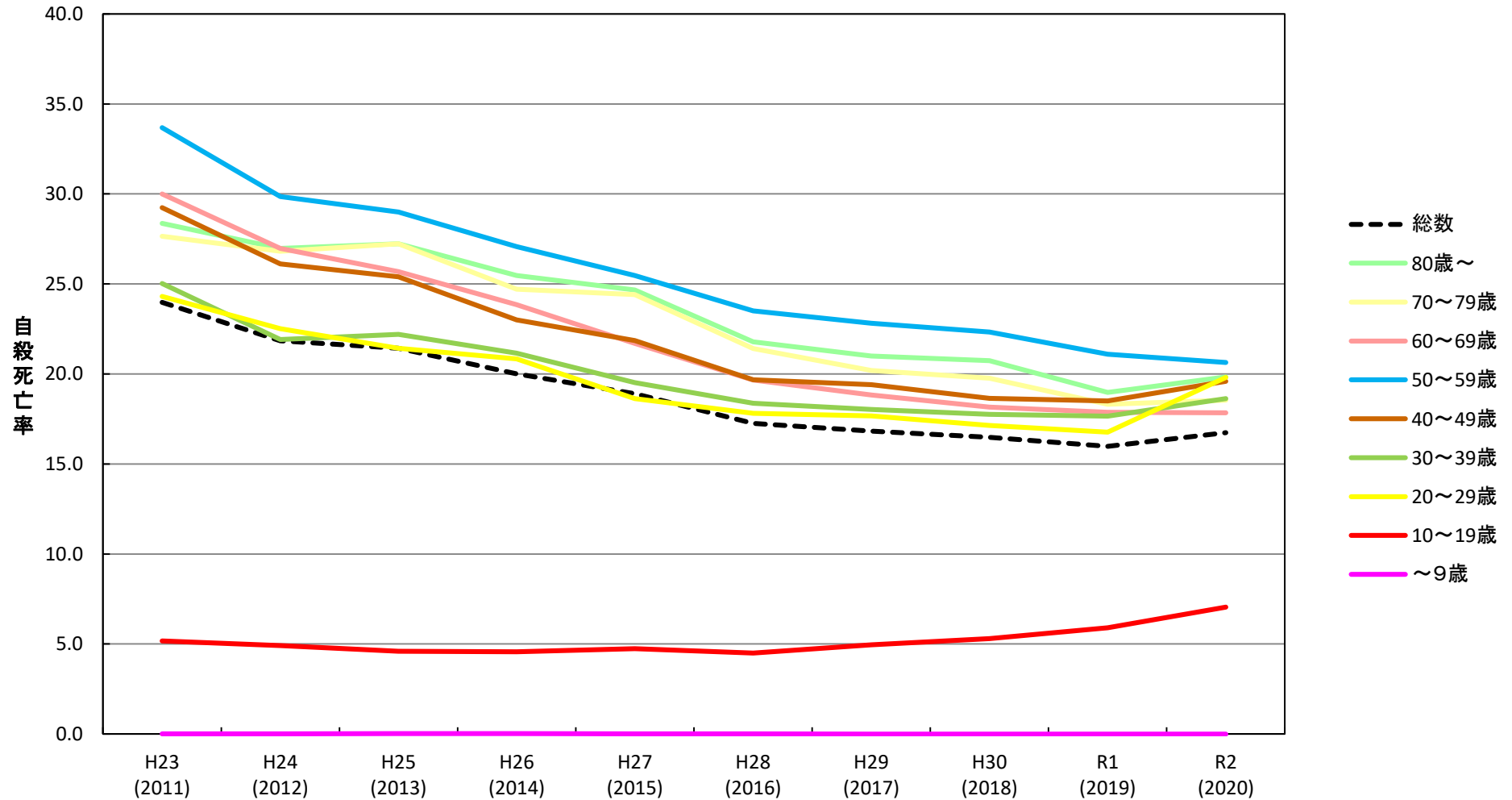
注)「自殺死亡率」とは、人口10万人当たりの自殺者数をいう。

資料:警察庁自殺統計原票データ、総務省「国勢調査」及び「人口推計」より厚生労働省作成

# 年齢階級別自殺死亡率の年次推移

○令和2年は元年と比較して、50歳代及び60歳代以外各年齢階級で上昇した。

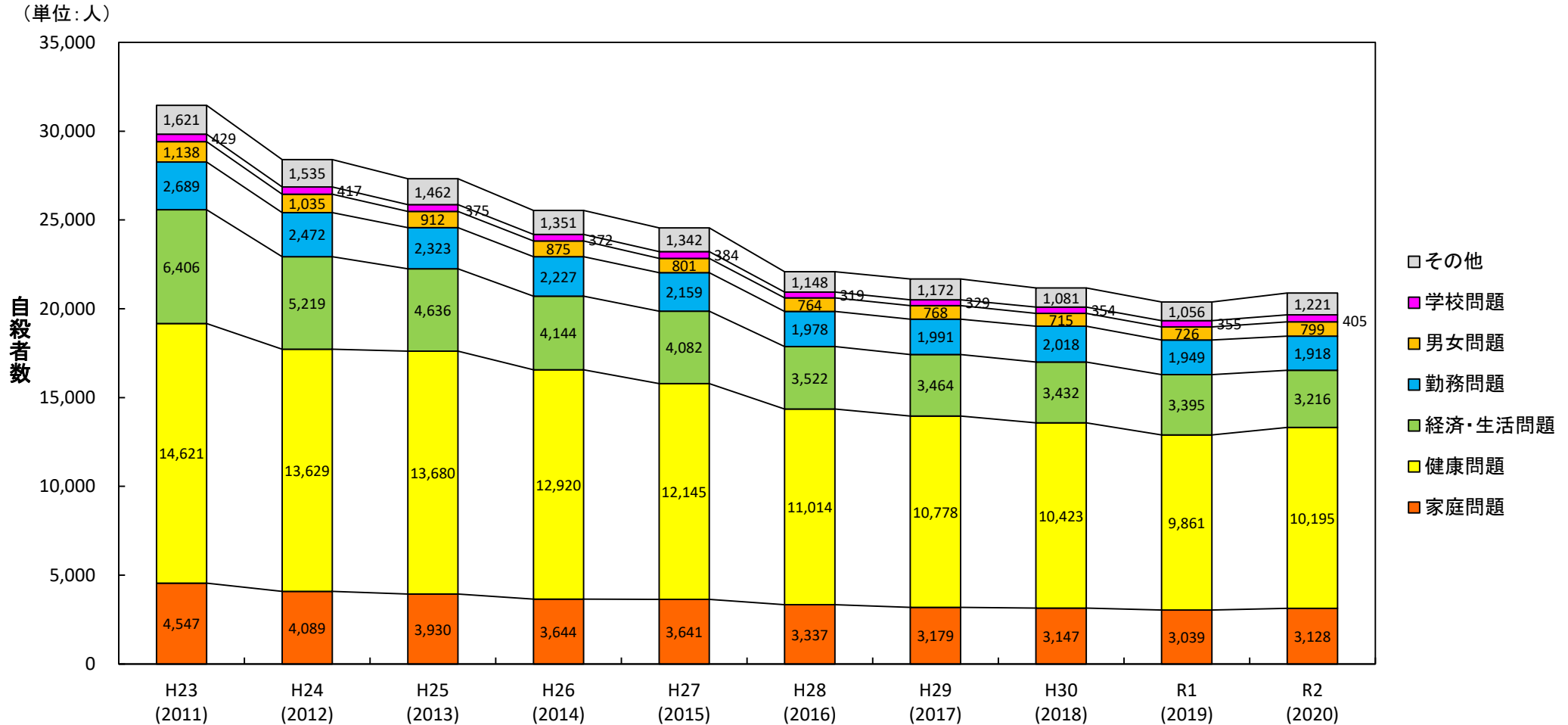
○令和2年は元年と比較して、20歳代及び10歳代で大きく上昇し、それぞれ3.0、1.1ポイントの上昇となった。



資料：警察庁自殺統計原票データ、総務省「人口推計」及び「国勢調査」より厚生労働省作成

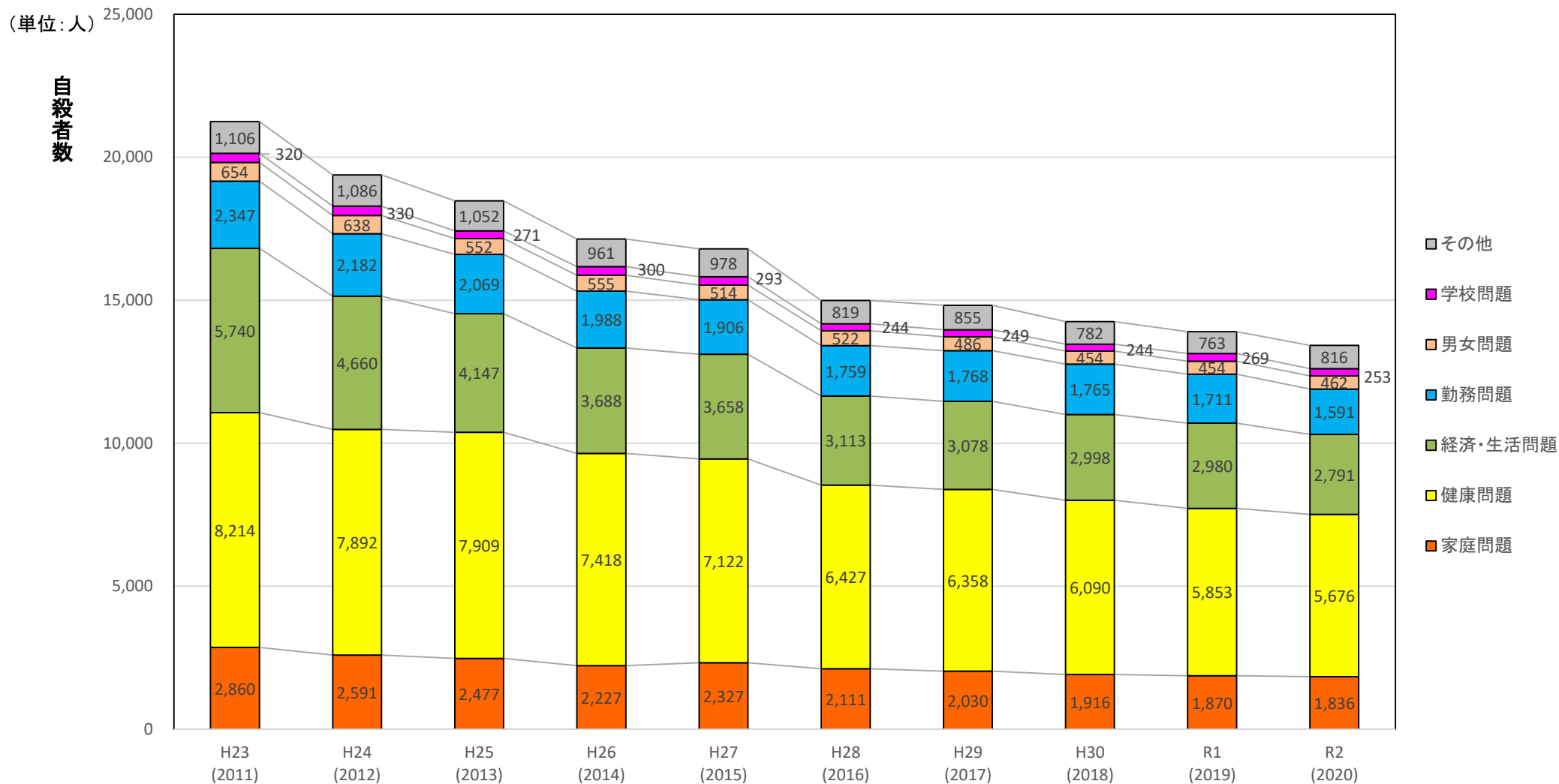
# 自殺の原因・動機別自殺者数の年次推移

- 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
- 令和2年は元年と比較して、経済・生活問題が最も大きく減少し、179人の減少となる一方、健康問題が最も大きく増加し、334人の増加となった。



# 男女別自殺の原因・動機別自殺者数の年次推移(男性)

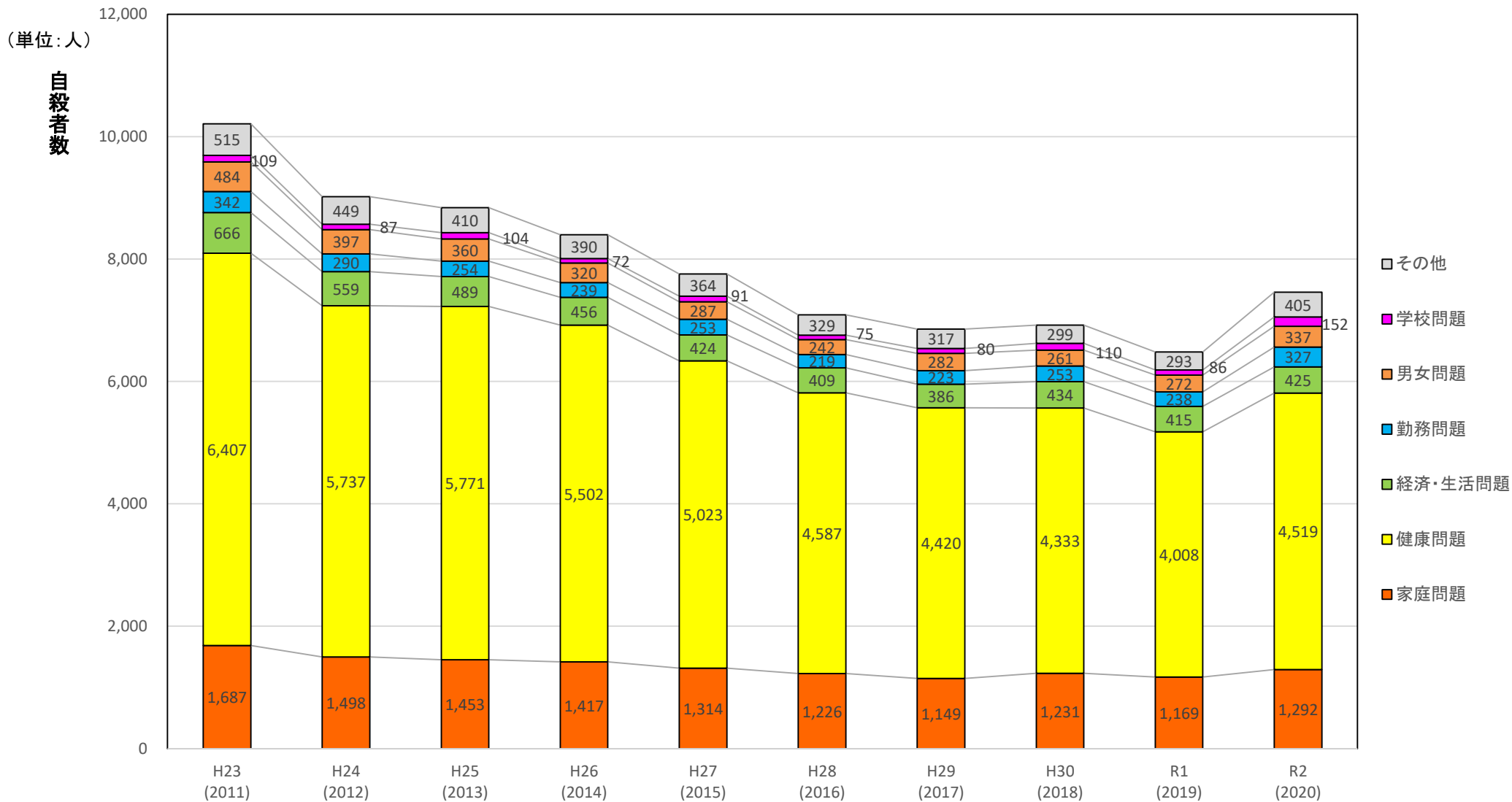
○男性は、健康問題、経済・生活問題、家庭問題、勤務問題が多いが、減少傾向となっている。





# 男女別自殺の原因・動機別自殺者数の年次推移(女性)

○女性は、健康問題、家庭問題が多い。減少傾向にあったものの、令和2年はすべての原因・動機で増加した。





# 20歳未満の自殺者数(原因・動機別)

		家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	計	学校問題							その他	不詳
								入試に関する悩み	その他進路に関する悩み	学業不振	教師との人間関係	いじめ	その他学友との不和	その他		
令和2年	総数	142	166	16	35	57	234	28	68	64	3	7	30	34	65	262
	男性	73	67	12	29	31	126	17	37	42	1	3	9	17	38	178
	女性	69	99	4	6	26	108	11	31	22	2	4	21	17	27	84
令和元年	総数	116	138	11	26	63	202	28	57	55	4	2	26	30	62	202
	男性	70	66	6	19	32	146	22	46	44	1	1	11	21	46	151
	女性	46	72	5	7	31	56	6	11	11	3	1	15	9	16	51
差	総数	26	28	5	9	-6	32	0	11	9	-1	5	4	4	3	60
	男性	3	1	6	10	-1	-20	-5	-9	-2	0	2	-2	-4	-8	27
	女性	23	27	-1	-1	-5	52	5	20	11	-1	3	6	8	11	33

注: 警察庁自殺統計原票データを基に厚生労働省自殺対策推進室作成  
 注: 自殺者一人につき原因・動機を3つまで計上可能としている。

# 新型コロナウイルス感染症の感染拡大下の自殺対策に係るSNS相談の拡充-①

今年度新たに設置された新型コロナウイルス感染症の影響による心の悩みに特化した相談窓口（以下「コロナSNS相談窓口」という）では、通常のSNS相談窓口と比較すると、30歳代及び40歳代の中高年層からの相談が多かった。どちらの窓口も男女比は2対8であり、女性の利用が多い。（性別・年齢を問わず相談を行う2団体の数値を用いて比較）

## 通常のSNS相談窓口における相談延べ件数

※ BONDプロジェクトは10～20代の女性を対象としている  
 ※ チャイルドライン支援センターは18歳以下を対象としている

団体名	相談延べ件数	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	小計	男性	女性	小計
特定非営利活動法人 東京メンタルヘルス・スクエア	24,206	6,398	7,567	4,781	2,994	1,276	23,016	3,985	19,230	23,215
特定非営利活動法人 BONDプロジェクト	19,061	8,402	9,694	0	0	0	18,096	16	18,271	18,287
特定非営利活動法人 自殺対策支援センターライフリンク	14,949	3,789	3,883	3,236	2,060	910	13,878	2,418	11,179	13,597
特定非営利活動法人 チャイルドライン支援センター	4,812	4,812	0	0	0	0	4,812	472	3,781	4,253
計	63,028	23,401	21,144	8,017	5,054	2,186	59,802	6,891	52,461	59,352

※ 年齢不詳・性別不詳を除いて計上している

## コロナSNS相談窓口における相談延べ件数

※ 東京メンタルヘルス・スクエアは令和2年6月～3年3月までの相談実施分  
 ※ 自殺対策支援センターライフリンクは令和2年3月～3年3月までの相談実施分

団体名	相談延べ件数	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	小計	男性	女性	小計
特定非営利活動法人 東京メンタルヘルス・スクエア	5,660	729	1,198	1,347	1,351	723	5,348	1,017	4,373	5,390
特定非営利活動法人 自殺対策支援センターライフリンク	2,602	75	418	667	675	256	2,091	361	1,807	2,168
計	8,262	804	1,616	2,014	2,026	979	7,439	1,378	6,180	7,558

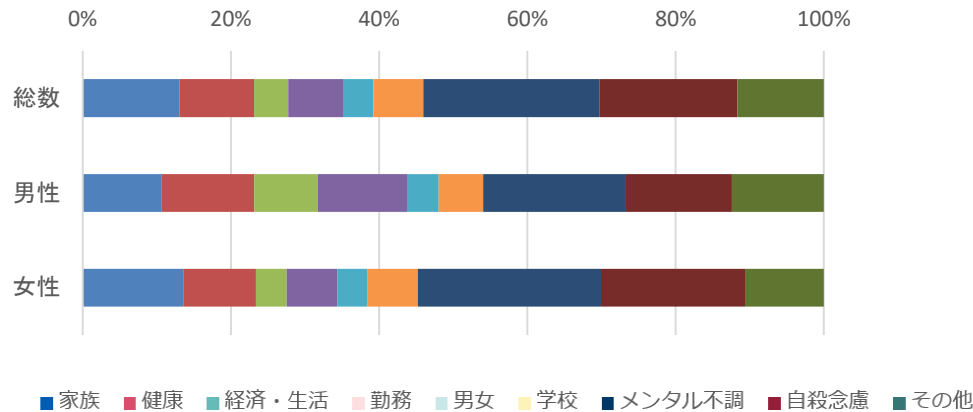
※ 年齢不詳・性別不詳を除いて計上している

# 新型コロナウイルス感染症の感染拡大下の自殺対策に係るSNS相談の拡充-②

相談内容別の割合をみると、どちらの窓口でも「メンタル不調」の相談が最も多かった。通常のSNS相談窓口で2番目に多かった「自殺念慮」の相談がコロナSNS相談窓口ではわずかだった。相談先を分けることによって通常のSNS相談窓口で自殺念慮を有する相談に注力できたのであれば、コロナSNS相談窓口を設置した意義はあったと思われる。

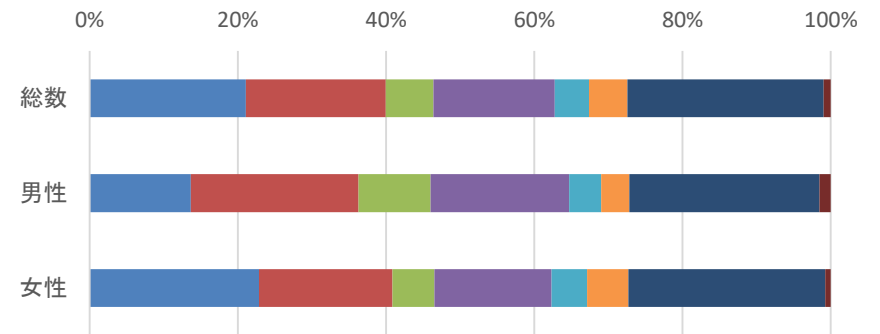
## 通常のSNS相談窓口における相談内容

- 「その他」を除いて全体の相談内容別の状況についてみると「メンタル不調」（27,383件）が最も多く、次いで「自殺念慮」「家族」「健康」と続いている。



## コロナSNS相談窓口における相談内容

- 全体の相談内容についてみると「メンタル不調」（1,142件）が最も多かった。次いで「家族」「健康」と続いており、「自殺念慮」の相談は42件とわずかであった。



※ 相談内容について、相談1件につき複数の計上を可能としている  
※ 総数には性別不詳を含めて計上している  
※ コロナSNS相談窓口は東京メンタルヘルス・スクエアが計上した集計結果

## SNS相談窓口の拡充について

第一次補正予算では、民間団体が行うSNS相談及び都道府県等が行う電話相談等の支援体制の拡充へ2.7億円を計上し、第二次補正予算では、支援体制の拡充に加えて、リモートワークなど自宅での相談体制整備や相談ブース隔離等の環境整備に向けた支援へ8.7億円を計上した。補正予算を活用し、民間の2団体では通常の相談窓口に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による心の悩みに特化した相談窓口を設置した。